

1 救命具

●ボートには、基本的に個人救命具を搭載します。単純な浮き輪式のものがありますが、視覚障害者の場合は、できるだけ水に落ちると自動的に膨張するタイプのものを推奨します。ベルト式やベスト式のものがあります。

2 工具

●最小限の工具を載せるように心がけましょう。ストレッチャーやリガーの緩みなどに対処するためです。使用部品に合わせて、レンチ、プライヤーなどです。これらは、陸上で使用するものとは別に乗艇専用のものを用意しましょう。小さな工具袋に入れ、乗艇後は、水洗いし防錆剤を吹き乾燥させます。

3 スポンジなどの排水用具

●ラフ・ウォーターや浸水、雨に備え、ボートの中の水を排出するために、スポンジやペットボトルを切った簡単な排水用の器を載せておきましょう。

4 給水

●特に夏は、水を持って乗り、熱中症や脱水症に注意しましょう。水のボトルは、必ず個別に用意します。クルーの「回し飲み」は、誰かの風邪に全員が感染してダウン、という事態につながります。

5 タオル・防寒具や雨具

●タオル、防寒具、雨具などを、必要に応じて持って乗りましょう。アクセサリや貴重品の類は、ケガのもとになったり、水に落とす恐れがあるので、外しておきましょう。

6 ライト

●日没後の乗艇では、白色のライトを艇の前後に取り付けます。ライトは、自分達が前方を見るためのものではなく、他の船舶に存在を知らせるためのものです。まわりのどこからも見えるようなものであることが大切です。水域でのルールに注意しましょう。